

遅春

ちしゅん

すでに暦の上では春になっているのに、冬のなごりで寒さが残っている。春がなかなかやって来ないこと。春の到来が待ち遠しい気持ちもありつつ、冬の良さを畑で感じます。



1月下旬頃から気温がグッと下がり、氷点下まで冷え込みました。昨年のこの時期は大雪で、積雪前に強風で被覆がめくれてしまい補修できずに大変だったと思い返します。毎年の失敗と経験を活かして、冬葱を守っていきます。

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

京都市内で育った冬葱のお届け

6～7月頃に種まきした苗を秋頃に定植。昨年の夏も非常に暑く、畑で働く農人にとっても大変な時期ですが、物言わぬ苗にとってもストレスが多くかかる時期であり、1年の中でも苗作りに苦労したことを思い返します。雨が少なかったこともあり、水まきや葉面散布などこまめな管理を行いました。今年の冬は暖冬と言われ、今のところ比較的暖かい日が続いています。時折ある冷え込みの影響もあり、霜で葉折れをしてしまっているねぎもありますが、品質の良い状態に育てた冬葱を、ぜひ。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

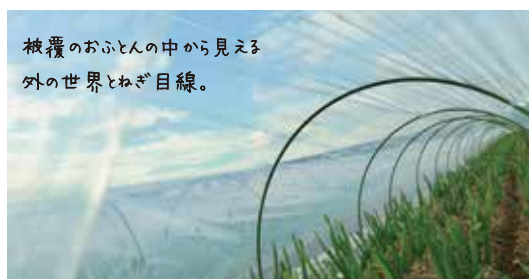
冬葱を適切に守り、育てるおふとん

この時期は、寒さからねぎを守るために、ビニール被覆を多くの畑で行っています。冬が旬の野菜ではありますが、育つのに程よい温度は20℃前後と言われており、ねぎにとってもやはり寒い時期であり、いわゆるお布団を被せてあげる必要があります。ビニールを被せてしまうと、一目ではねぎの状態が確認しにくくなってしまいますが、時には雨前にビニールを開けて水をあげたり、湿度が高くなりすぎると病気になりやすかったりするので換気を行ったり、薬や栄養分も与えたりしています。また、昨年末に定植を行ったトレイの洗浄など、今春以降の栽培に向けた取り組みも農人一同で行い、大事に育てたねぎをお届けしていきます！



畑が広い分、植える苗も多く、苗を作るとレイも多い！

被覆のおふとんの中から見える
外の世界とねぎ目線。



とある日の農人日記。

今朝、畑で凍っているねぎがなかなか解けなかった為、収穫に時間がかかりました。こういうことも多くなってくるので、ねぎの収穫を待つ工場に確認を取りつつ収穫の順番を入れ替えるなど、柔軟に対応していきます。（収穫班・川北）

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことわざだより

NO.201

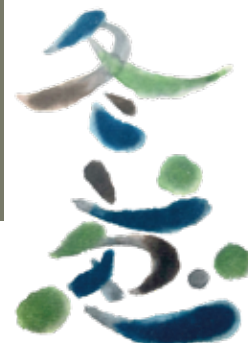
2024年2月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP

4A



こと京都は
「野菜を食べよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。